

普及だより



アシストシステムによる農作業の軽労化研修会

かつて普及センターとして普及業務のみを担当する組織が設けられていた県の体制が大きく変わり、農業振興課として一時は行政事務と一体となりましたが、2年前から再び農業振興課内に普及グループとして専門のグループが配置されました。ようやく体制も馴染んできたかと思っております。昔のように十分な人員とは言えませんが、全力で取り組んで参りたいと考えている次第です。

さて、零戦やYS11の設計に携わり、航空機の設計者として世界的に有名な堀越二郎は著書の中で次のようなことを述べています。

「技術者の仕事というものは芸術家の自由奔放な空想とはちがって、いつも厳しい現実的な条件や要請がつきまとう。しかし、その枠の中で水準の高い仕事をなしとげるためには、徹底した合理精神とともに、既成の考え方を打ち破ってゆくだけの自由な発想が必要なこともまた事実である。与えられた条件がどうにも動かせないものであるとき、その条件の中であたりまえに考えられることだけを考えていたのでは、できあがるものはみなどんぐりの背比べにすぎないだろう。私が飛行機の設計を通じて肝に銘じたことも、与えられた条件の中で、とうぜん考えられるぎりぎりの成果をどうやったら一歩抜くことができるかということをつねに考えなければならないということだった。」

農業生産技術や経営は工業生産と違って大変幅広い分野が関わる集大成であります。それぞれの地域の土質や気象条件を活かして産地づくりがなされてきたわけですが、産地をとりまく社会情勢はゆっくりとした歩みで、大きく変化してまいりました。それぞれの産地がかかえる課題について、生産者の方々や関係機関の方々とともに、現状を合理的に見つめ、自由な発想をもとに「一歩抜く」取り組みを進めていくことができればと考えております。本年度はこれまでの課題や取り組みを洗い直し、27年度からは新しい課題を加えて目指すべき方向を見据えて職員一同で力を合わせて取り組んでいく所存でございますので、変わらぬ御支援と御協力を賜りますようお願いいたします。

海草振興局農業振興課長

ここに力を入れてます！！

その1

新しょうが安定生産への取り組み

和歌山市の砂地地帯では、新しょうがの栽培が盛んに行われており、生産量では全国2位の産地となっています。しかし、平成24年12月末に臭化メチル剤の使用が全廃されて以降、生産現場では土壌伝染性病害であるしょうが根茎腐敗病の発病リスクが高まっています。しょうが根茎腐敗病は、Pythium属菌(糸状菌の一種)を原因とする土壌伝染性病害の一種です。全国のしょうが産地で発生が認められ、発病すると急速にまん延し、大きな被害をもたらします。

そこで、農業振興課では農業試験場およびJAわかやま、生産者と協力して、根茎腐敗病対策試験等を実施してきました。平成26年度からは、従来からの薬剤散布試験等に加え、小型給湯器等を用いた部分的な温水土壌消毒試験にも取り組んでいます。根茎腐敗病の原因となるPythium属菌は、50℃の温度を維持すれば約2時間で死滅します。しょうが生育期に根茎腐敗病が発病した場合、発病箇所温水を注入して被害の拡大を防止できる技術になると考えています。



(左図) しょうが生育期の部分的な温水土壌消毒(注)小型給湯器と塩ビパイプを加工したハス口を用いて温水を注入



(右図) 生産者考案の部分的な温水土壌消毒(注)高圧温水洗浄機と液肥灌注機を用いて温水を注入

その2

果樹間複合経営の安定化に向けて

和歌山地域は、古くから果樹間複合経営が盛んで、みかんを核とした様々な果樹栽培が営まれています。中でもキウイフルーツ及びイチジクは、近年、価格面で安定しており、果樹間複合経営の柱として、着実に栽培面積が増加している品目です。しかし、昨年5月、病原性が強いとされるキウイフルーツかいよう病(Psa3系統)の発生が本県において確認され、海草管内でも発生状況調査にご協力いただいたところです。加えて、広く普及している湿式受粉法については輸入花粉を用いており、本病の発生以降、検疫条件が強化されたことにより、必要量を常に確保できるかどうか不透明な状況にあります。

こういった背景から、平成27年度より29年度の間、緊急的に「適切な発病部位除去手法の普及」、「安全な受粉方法」及び「雄木確保に向けた高接ぎの推進」を柱に普及指導事業を展開していきます。

また、イチジクについては、近年、難防除病害であるイチジク株枯病に悩まされており、成木が突然枯死するなど、経営的に不安定な状況にあります。平成27年度より29年度の間、効果的な農業による防除体系の確立を始め、根域制限や土壌改良といった物理的防除についての現地実証や、有望な抵抗性台木の推進など実施してまいります。



キウイフルーツかいよう病発生状況



イチジク株枯病発生状況

食育のススメ♪

和歌山県では、小学生を対象とした食育活動として、県産果実(うめ、もも、かき、みかん)の出前授業、お米の農業体験、郷土食体験を行っています。

県産果実の出前授業では、生産農家の方から栽培についての話や、栽培するうえで苦労したこと、振興局職員から県内の生産状況や、品種について話しました。果実についてのお話をした後、実際に果実を食べてもらいました。子ども達からは、「嫌いだったけど食べられた」「梅ジュースを家でも作ってみたい」「とても甘くておいしい」といった声も聞かれました。

お米の農業体験は田植えと稲刈りを行いました。稲刈りでは、刈りとった稲を束ねて「はざかけ」を行いました。実際に学校でも稲を育てていることから、「どうしてここの稲は大きく育つのか」といった質問がされていました。郷土食体験では、和歌山市生活研究グループの方々にも協力いただき、子供たちに郷土食を作ってもらいました。とてもおいしかったらしく、あっという間に完食していました。この取組みを通じて、和歌山県産品に対する理解を深めてもらうだけでなく、農業の大変さや、食の大切さを伝えていきたいと考えています。



力をあわせてはざかけ☆

担い手イキイキ☆

山崎 豊さん (和歌山市)



山崎さんは、平成24年に新規就農されました。現在、新しょうが、なす、里芋、ブロッコリー、キャベツ、白菜、レタス、シュンギクなどを栽培しています。就農したきっかけは、以前から家庭菜園で野菜を作るのが好きで、これを仕事にしたいと考えるようになり、前職の造園業を辞め、就農されました。

就農してからの3年を振り返ってみると、あっという間で、試行錯誤と失敗の連続だったようです。肥料のやりすぎなど、多くの失敗を経験しましたが失敗することで勉強できた。今、栽培している品目の他にも、ネギ、タマネギ、じゃがいもやトマトなど20種類以上の品目を試してみたそうです。

目指すは販売先から「欲しい」と言われる物を作ること。農業は、元々好きで始めたことですが、益々好きになり、楽しくやっているとのこと。

古野 学さん 彰代さん (紀美野町)



古野さん夫妻は、平成25年に新規就農されました。田舎暮らしがしたい、自分のペースで仕事をしたいと考えたのがきっかけです。ご夫婦で、県農業大学校や先進農家で研修を受け、就農しました。栽培品目は、柿、金時生姜、ハーブを栽培しています。

就農して、1年やってみて、「わかってはいるけど、天候やカメムシの被害などで思ったとおりには栽培できない」と感じたようです。また、売り先についても、自らのネットワークを活かして、新規の販売先も開拓するなど積極的に活動されています。ハーブについては、産地化を目指して取り組んでいます。

今後は、実際に収穫、出荷してみて、思ったよりロス(規格外)が多かった経験から、規格外の加工にも取り組みたいと計画中とのこと。

和歌地方4Hクラブ連絡協議会 中西 康介さん (海南市)



中西さんは、平成23年に就農されました。主な栽培品目は花とブルーベリーです。就農する前は、(株)伊賀の里モクモク手づくりファームなどで働き、その経験を活かし、しっかりとした経営感覚に基づいた農業を展開されています。加入した和歌地方4Hクラブ連絡協議会においては、リーダーシップを遺憾なく発揮し、地域に密着した「販売活動」の軸となって活動されています。

その活動を近畿地域農村青少年会議で発表し、農村青少年クラブ連絡協議会長賞を受賞しました。今後については、4Hクラブ員の増員や多品目販売などまだまだ色々な事を計画されています。

イノシシ・シカも一網打尽! ? ~海南市笠畑に大型囲いワナが出現~

鳥獣害対策の切り札として、IT活用で遠隔操作可能な大型囲いワナ『まる三重ホカクン』が平成26年9月に海南市笠畑に設置されました。これは国の補助事業を活用した先進的な囲いワナの現地実証として行っているもので、管理は笠畑中山間集落の方々などをお願いしています。

現在は、餌付けを行っている段階で、イノシシ1頭の捕獲にとどまっていますが、獲物の姿はたくさん確認されており、今後の爆猟に期待がかかります。

まる三重ホカクン

インターネット回線を通じ、ワナの状況を手元のパソコンやタブレットで映像で確認でき、さらにワナを作動させることも可能です。



爆猟を待つ現場の
囲いわな

農地を貸したい人、借りたい人 注目!!

県農地中間管理事業が昨年7月1日からスタートしています。この事業では、農地を貸したい人、借りたい人の間に県農業公社が入って、農地の貸借契約を行いますので、安心してご利用頂けます。農地を貸したい人、借りたい人は是非、この制度を御活用下さい。本事業についてのご相談は、各JA、県農業公社の他、市町、振興局まで。詳細は「和歌山県農業公社」でネット検索。
webサイトアドレス <http://www.w-apc.or.jp/>

なお、農地を借りたい方の公募は3月、6月、9月、12月の年4回行われる予定です。本紙をご覧の担い手農家の皆様は是非、お申し込みを!!。



農地中間管理事業のイメージ

1 主な補助制度

項目	内容
農作物鳥獣害防止対策	有害獣(サル、イノシシ、シカ、アライグマ)捕獲、防護柵設置に要する経費
果樹産地への支援	オリジナル品種・優良品種への改植、マルチ・節水型かん水施設栽培の導入、園内道、傾斜緩和等の園地整備
野菜花き産地への支援	野菜花き生産における省エネや高品質化流通の合理化への機械導入等の取組を支援します。
環境保全型農業への支援対策	化学肥料及び農薬の5割低減とセットで行う地球温暖化防止等に効果の高い営農活動を支援
経営体育成支援	経営体の育成・確保を推進するため農業用機械、施設の導入を支援
青年就農給付金	就農に向けて、県が認める研修機関、先進農家又は先進農業法人において研修を受ける青年就農希望者や新規就農される方に、農業を始めてから経営が安定するまで

注) 詳しくは市町、農協、振興局へおたずね下さい。

2 主な融資制度

資金名	資金の内容
農業近代化資金	農業者の経営の近代化に資するため、農協などの融資機関が貸し付ける施設資金等に都道府県が利子の補給を行うことにより長期で低利な融資を行う制度資金です。
農業経営基盤強化資金(スーパーL資金)	認定農業者の方(農業経営改善計画の認定を受けられた方)が、計画に即して規模拡大その他の経営展開を図るのに必要な長期低利資金を日本政策金融公庫が融通する制度資金です。
農業経営改善促進資金(スーパーS資金)	経営改善計画の認定を受けた農業者(認定農業者)に対して、計画に即して規模拡大その他の経営展開を図るのに必要な低利運転資金を、農協等系統民間金融機関から融資する制度資金です。
農業改良資金	農業者が農業経営の改善を目的として、新たに創意工夫によるチャレンジ農業への取組開始を支援するための資金です。新規作物の導入や新技術・加工販売事業の開始に必要な資金を日本政策金融公庫が無利子で融資します。
経営体育成強化資金	経営規模の拡大、経営の転換を図るための前向き投資資金や償還負担の軽減のために必要な資金を日本政策金融公庫が融資する制度資金です。
青年等就農資金	認定新規就農者が認定就農計画の目標達成を図るのに必要な資金を日本政策金融公庫が無利子で融資し、就農を支援するものです。

注) 詳しくは農協、金融公庫、振興局へおたずね下さい。

頑張ってます～新規採用職員の1年間～

初めまして。平成26年度新規採用の廣田です。仕事は、主に花きに関する仕事を担当させていただいていますが、先輩職員について



色々な現場に同行させていただいています。その他にも4Hクラブや、食育、生活研究グループの現場に同行させていただいています。まだまだ知らないことばかりで、皆さんに教えていただくことばかりだと思います。一日でも早く皆さんのお役に立てるよう、頑張りますのでよろしくお願ひします。

編集後記

今年はいよいよ紀の国わかやま国体、わかやま大会が開催されます。また、平成28年大河ドラマ「真田丸」の撮影も始まったりと全国から注目され和歌山が躍動する年だと思っています。農業もこの勢いに乗って飛躍・躍動する1年になりますように♪



2015 紀の国 わがやま国体
第70回国民体育大会 躍動と歓喜、そして絆

平成27年 9月26日◎・10月6日◎

2015 紀の国 わがやま大会
第15回全国障害者スポーツ大会 躍動と歓喜、そして絆

平成27年 10月24日◎・10月26日◎



古紙配合率70%再生紙と、環境に配慮した大豆インキを使用しています。